

JAMCA ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association



No.11
1996年10月1日

発行 全国自動車整備専門学校協会
 協会事務局 〒160 東京都新宿区大京町31
 ヴィップ新宿御苑 ☎03-3356-7066
 編集事務局 〒125 東京都葛飾区西亀有3-28-3
 ☎03-3601-2535 FAX03-3601-2988

次代への流れと安全

土岐自動車工学専門学校 校長 齋木 寛治

車社会と安全

現在の私たちの生活を自動車抜きで語れないように、人とクルマの関係は広く、深いものがあります。それだけに、人がクルマに託す「夢」は広大なものです。

「感じる夢。感じるクルマ」をテーマに開催された東京モーターショー。第31回という我が国の自動車史を感じさせることもさることながら世界14か国から354社、6政府、1団体が参加し乗用車、商用車、電気自動車、特殊車、二輪車に部品、関連商品とクルマの総合ショーでした。さらに、13日間の会期中の入場者が150万人と報じられたが、まさに「東京」が世界自動車市場の三極の一つとして強い印象を与える結果となりました。

我が国のモーターリゼーションの躍進は、各メーカーとも電子制御化を駆使した最新技術の導入をはじめ乗員や歩行者などの能動的あるいは受動的な安全性の向上を求め、より安全でより一層の動力性能が確保されつつあります。最近クローズアップされているABS、TRCそしてVSCやSRSエア・バッグ、衝撃吸収構造ボディなどの自動車の安全性については、国家的問題でありメーカー単独の問題ではないことは言うまでもありません。メーカー間相互にお



いて、情報交換などを早急にとってクルマの安全性をさらに向上させることが必要かと思われま。これによって尊い生命が痛ましい交通事故によって奪われることのないよう一日も早く防止できるクルマ対策をとることが切望されます。

自動車の国際化

我が国における輸入車の比率が年々増加の一途にあり、平成8年6月現在の輸入車の割合は、全登録車の12%まで達しています。さらに、前年同月に対し4.2%増と飛躍的に向上しており、今後ますます向上していくものと思われま。諸外国からの輸入車が日本市場に参入してくることも事実ですが、逆に我が国の自動車メーカーや多くの企業が対アジア市場などをめざして進出していることも事実です。こうした時代の流れは、自動車産業だけでなく家電など第三次産業すべてに言えることと思われま、近年我が国の自動車

産業も国際的になってきたというひと言に尽きるのではないのでしょうか。国家的プロジェクトから国際的プロジェクトへ、大きく飛躍していかねばならない時が来ていると思われま。

語学力の必要性

自動車の整備もこうした国際的な視野からみれば、もっと各国の言葉が話せる、あるいは各国の整備マニュアルが解読できるような語学力のある人材が確保されてもよいのではないのでしょうか。せめて日常の英会話が出来ると整備士が必要になってくる時がきっと来ると思われま。

安全を考える高い水準

DAS BESTE ODER NICHTS
 ダス・ベスト・オダ・ニッヒ。これはドイツ語です。訳すと「最善か無か」という意味になるそうです。これはメルセデス・ベンツから学んだ言葉です。最善か無かということ、ともすると一か八かという打算的な言
 (2頁左上段へ続く)

CONTENTS

- 2面 OPINION
- 3面 北から南から
- 4・5面 特集・EVの将来性
- 6面 協会トピックス
- 7面 各校の行事紹介
- 8面 私の教授法・編集後記